

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書1章26～38節＞

1 なぜ神様はイエス様の親としてヨセフとマリアを選ばれたのか？

イエス様の誕生の出来事でまず思うことは、なぜヨセフとマリアを神様を選ばれたのだろうかということでしょう。「ダビデ家のヨセフ」(27)にその答えはあります。神様は「ダビデの末裔に神の永遠の王国を興す」と約束されたからです(32-33、サムエル記下7:13、詩編132:10-12、イザヤ書9:5-6)。

2 なぜルカはマリアのもとに天使が現れた話を告げたのか？

また、マタイ福音書では天使がヨセフに告げに来たとありますが、ルカではマリアです。なぜでしょうか？ ルカはマリアの戸惑いを記していますが(29, 34)、彼女の従順さも記しています(38)。納得できないことはちゃんと問う、しかし、私たちの思いを超えたことのおおきになる神様であることを覚え直したら、あとは神様を信じて歩む。信仰者にとって大事なことを考えさせてくれるからかもしれません。

3 マリアは従順で好感度大。しかし、信仰の対象にはなり得ない。

しかし、マリアが人間的にどんなに好感を持てたとしても、私たちの信仰の対象ではありません。信仰の対象、すなわち、私が生きていける理由と根拠がそこにある、そのお方はマリアの造り主であり、彼らを用いて救い主イエス・キリストをお与え下さった主なる神様なのです！ このお方を知ったから、古今東西、代々の信仰者はこの神様を信じて、どんなときにも強く生きて歩み続けることができたのです。子ができないで老齢になっていたエリサベト(洗礼者ヨハネの母)。結婚前で妊娠するはずのない若いマリア。全く異なると同時に共通点を持つ二人。この二人を選び、人間にはできないけれども全能の神様にはできる、まさに神様らしい仕方で恵みに満ちた救いを成し遂げて下さった神様。それが聖書を通して知らされた、私たちの真の神様なのです！ このことが分かったら、もうマリアを拝む対象にするようなことは考えられませんし、それは真の神様が悲しまれることでしょう。聖書の信仰を「人間の宗教」にしてしまってはならないのです。「私は主のはしため(端女:原語は奴隷・下僕の女性形)です。お言葉通り、この身になりますように」(38)。「マリアが示した内容に、あなたも倣って生きなさい」と神様は呼びかけておられるのです。